

スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

令和3（2021）年度

栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業

栃木県では、平成 30（2018）年度からスポーツ庁の委託事業である「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受託し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運醸成を図ることや、スポーツへの興味・関心を高めるとともに、おもてなしの心や公共心の涵養、共生社会の理解等を目的として、「栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業」を実施しています。

本リーフレットは、オリンピック・パラリンピック教育の普及・充実に向けて、今年度の実践自治体である那須塩原市、推進校である栃木翔南高等学校、今市特別支援学校の実践事例や成果等を掲載しています。

令和4（2022）年3月
栃木県教育委員会

那須塩原市の取組

実践校

小学校 11校
中学校 2校

小学校

- 黒磯小学校
- 稲村小学校
- 東原小学校
- 豊浦小学校
- 共英小学校
- 波立小学校
- 高林小学校
- 槻沢小学校
- 東小学校
- 南小学校
- 大貫小学校

中学校

- 三島中学校
- 西那須野中学校

主な取組内容

- オリンピアン・パラリンピアン等による講話や交流会
 - ◆ 鈴木 徹 選手〔走高跳：シドニー・アテネ・北京・ロンドン・リオ・東京パラリンピック〕
10月26日（火） 東小学校・共英小学校
 - ◆ 堀江 航 選手〔パラアイスホッケー：平昌パラリンピック〕
11月1日（月） 高林小学校・波立小学校
11月9日（火） 南小学校・槻沢小学校
12月14日（火） 稲村小学校
 - ◆ 秋元 妙美 選手〔ボッチャ：ロンドンパラリンピック〕
11月4日（木） 大貫小学校
 - ◆ 榎本 遼香 選手〔板飛び込み・シンクロ板飛び込み：東京オリンピック〕
11月10日（水） 黒磯小学校
 - ◆ 石川 直宏 選手〔サッカー：アテネオリンピック〕
11月17日（水） 三島中学校
 - ◆ 眞田 卓 選手〔車いすテニス：ロンドン・リオ・東京パラリンピック〕
12月6日（月） 東原小学校・西那須野中学校
12月7日（火） 豊浦小学校

成果

- オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。
- 各校において他教科と関連付けてオリンピック・パラリンピック教育を実践することができた。
- トップアスリートとの交流を通して、夢や目標に向かって挑戦していくことの大切さを考える契機になった。
- I'm POSSIBLEなどの教材を効果的に活用し、共生社会への気付きを深めることができた。

課題

- 今後もこの学びを継続し、共生社会、持続可能な社会の実現に向けた教育活動につなげていくことが大切である。
- 本市のレガシーとして残していくために、継続して実践できることを検討していきたい。
- 市内全校でパラスポーツを経験できるようなシステムを検討していきたい。

活動の様子



榎本選手による講話



児童からの質問



眞田選手へお礼のあいさつ



眞田選手による講話



鈴木選手による実技披露



堀江選手と記念写真



眞田選手を囲んで記念写真



講師を囲んでお話タイム



ユニホック体験



鈴木選手による義足の説明



堀江選手による講話



秋元選手とボッチャ体験



石川選手との実技交流

栃木翔南高等学校の取組

ねらい

- スポーツの背景にある様々な国の文化を理解し、多様性を尊重する態度を養い国際的な視野を持って社会に貢献できる人材を育成する。
- 学校の教育活動全体を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイの意識を高めるとともに、スポーツの意義や素晴らしさを理解させる。

主な取組内容

- 各教科等における取り組み
 - ◆ 地 歴 「世界の生活文化、民族・宗教」「スポーツと平和」「世界情勢とオリンピック」
 - ◆ 保健体育 体育理論「オリンピックの歴史・意義・価値について」夏休みの課題「東京オリンピック・パラリンピック観戦」「レクリエーション：シッティングバレーボール」「フランス音楽について」
 - ◆ 音 楽 「ハンガリー（ホストタウン）の伝統料理「グヤージュ」を作る」「世界の伝統衣装」「住居、建物を考える（バリアフリー）」
 - ◆ 家 庭 「校内英語スピーチ（国際問題から平和について）」「英語プレゼンコンテスト（栃木から世界へメッセージ）」「国際交流（ベトナム・ウズベキスタン・スリランカの生活文化を知る）」
 - ◆ 情 報 「オリンピック・パラリンピックについて調べ学習・発表」
 - ◆ 課題研究 留学生による「スリランカと日本の違い」研究・発表
- 各行事等における取り組み
 - ◆ 人権教育 「パラリンピックから人権を考える（I'm POSSIBLE を活用）」
 - ◆ 学 校 祭 「オリンピック・パラリンピックについての掲示・発表」
 - ◆ 駅伝大会 卓越性の追求 大会前駅伝コースと周辺の清掃活動
 - ◆ 芸術鑑賞会 「日本伝統文化を学ぶ 和泉元彌 狂言」
 - ◆ オリンピアン講演 高藤直寿選手 「夢を目標に変える力」
 - ◆ パラリンピアン講演 秦由加子選手 「“人生を変えるのは自分自身” ～パラリンピアンから学ぶレジリエンス～」
 - ◆ 東京オリンピック・パラリンピックの英字速報掲示
 - ◆ 体育委員会新聞の発行 4回

成果

- オリンピック・パラリンピック開催年ということで、オリンピック・パラリンピックの意義や国際問題、人権問題、世界平和などについて、東京オリンピック・パラリンピックの具体的なエピソードを生かした取組を通して理解を深めることができた。
- 各教科で連携し、色々な角度からオリンピック・パラリンピックについて学ぶことができた。また、異国の文化を知り、理解を深めることで、視野を広げることができた。
- 「I'm POSSIBLE」の教材を活用し、パラリンピックから「諦めずに乗り越える力」、「公平」、「心のバリアフリー」、「共生社会」について考え、多様性を受け入れ認めていくことの大切さを学んだ。
- オリンピアンの講演会では、「負けや失敗から多くを学び、ひとつひとつ積み上げて行くことで強くなる」こと、パラリンピアンの講演会では、「辛い、苦しい等の困難は、貴重な経験である。前向きな考え方で人生は大きく変えられる」等のメッセージをいただき、困難に立ち向かう大切さを深く学んだ。

課題

- 今回推進校として、オリンピック・パラリンピック教育を実施してきたが、総合的な探究の時間など、すでに計画が立っている状態での推進事業導入は難しかった。今後、オリパラ教育を継続していくためには、教科・行事等の計画を見直すなどの取組が必要である。
- オリンピック・パラリンピックを通じた学びについて、学校全体で理解を深め、様々な教育活動に取り入れて行くことができるよう、働きかけをしていきたい。
- 今回、奉仕活動等がほとんど実施できなかったのが、機会を作って実施できるようにしていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた体育祭（パラスポーツ導入）や語学研修などの行事が中止となってしまったが、今後計画を進めていきたい。



パラリンピックに関する調べ学習



秦由加子選手の講話



ハンガリーの伝統料理「グヤーシュ」



学校祭 オリンピックの表彰台



人権教育



英字速報

柘翔南 体育委員会新聞

R3.12.20

【高藤直寿選手 座談会 NO.1】

講演会後に体育委員や生徒会などで高藤選手に質問をする座談会を行いました！
今後の部活動や生活に役立つことや、高藤選手の奥さんとの話まで聞かせていただきました。
一部にはなってしまいますが皆さんに共有したいと思います^^

Q. モチベーションのあげ方、維持方法を教えてください

A. モチベーションを高くしすぎないこと

モチベーション維持を無理に無理に上げようとする、上がった状態から少し下がっただけでモチベーションが落ちたと感じてしまう、そのため自らモチベーションをあげようとするのではなく、気持ちを落ち替らせることが大切。

Q. 今まで挫折したとき、うまくいかなかったときどうしている

A. とにかくポジティブに！

人生では挫折や上手くいかないことのほうが圧倒的に多い。だから、挫折や上手くいかなかったことを毎回気にしない。上手くいったとき不気味で嬉しいと思えるようにしている。でも、どうしても上手くいかないときは休むことも大事！

Q. 指導者として心がけてほしいこと、今までの指導者でよかったこと

A. コミュニケーションが大切私もよく指導者の方々とは言い合いになってしまうことがあった。しかしそうしてコミュニケーションをとっていくことで、色々なことを気軽に話せるようになったことが、とてもよかったのだと思う。

Q. 奥さんとの出会い

A. 子供のころに雑誌で見た女子柔道選手

はじめてみたときに、綺麗な人だなと思ったのがきっかけ。強くなったら話そうと思って、大人になってTwitterのDMで話しかけ仲良くなり結婚



体育委員会新聞

今市特別支援学校の取組

ねらい

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を機に、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツの価値を理解するとともに、ボッチャの実践を通して、誰もが楽しく参加し、相手のことを思いやる気持ちの醸成を図る。さらに、生涯にわたる豊かなスポーツライフや、多様性を尊重した共生社会の実現に向けた教育活動につなげていく。

主な取組内容

- 全校対象の内容
 - ◆ オリンピック・パラリンピックに関するアンケートの実施、集計、掲示物作成
 - ◆ パラリンピック応援メッセージ
 - ◆ オリパラメニュー給食の実施
- 中学部生徒対象の内容
 - ◆ オリパラ教育事前・事後学習
 - ◆ パラリンピックに関する調べ学習
 - ◆ 中学部ボッチャ大会
 - ◆ 訪問教育学級とのリモートボッチャ大会
 - ◆ 車椅子体験
 - ◆ パラリンピック選手及び日本ユニバーサルボッチャ連盟の方とのボッチャ交流会
- その他
 - ◆ 小学校との交流及び共同学習でのボッチャ大会
 - ◆ PTAレクリエーションでのボッチャ大会

成果

- ボッチャ大会や車椅子体験、給食で世界の料理を味わう等、体験的な学習を通して東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会だけでなく、パラ競技や世界の文化などへの興味・関心を高めることができた。
- 交流及び共同学習やPTAレクリエーション等、様々な活動場面にボッチャを取り入れ、パラ競技への理解を深めるとともに、家庭を巻き込むことで、生涯にわたるスポーツライフにつなげることができた。
- 中学部で実施したボッチャ大会では、「誰もが楽しめる」ことを念頭に自分たちでルール等を考える中で、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いて共感したりしながら、主体的で対話的な学習を進めることを通して、相手を思いやる心を育てることができた。
- パラ選手及びボッチャ連盟との交流会では、連盟の方にパラ選手のサポートの仕方や、審判の動きを教えてもらい、役割を担うことによって、自分のできることは自分で行い、できないことは周りの人の助けを得ることを実感できた生徒もあり、共生社会の実現に向けた教育活動につなげることができた。

課題

- 今回の事業を通して子どもたちに芽生えたオリンピック・パラリンピック競技への興味・関心を一時的なものにせず、計画的に学習活動に位置付けていく必要がある。
- オリパラ教育に学校全体で取り組むことで、さらに児童生徒が互いの人格と個性を尊重し支え合うことを学べるよう、教育活動を実施していきたい。

活動の様子



パラリンピックに関する調べ学習



オリパラ教育事前学習



中学部ボッチャ大会



パラ選手等とのボッチャ交流会



PTAレクリエーションでのボッチャ大会



リモートボッチャ大会

子供たちの声

誰が勝つか分からない、
みんなが楽しめるルールを
考えることができました。

今市特別支援学校
中学部



小学校でのスポーツ大会

物事をマイナスと見るか
プラスと見るか、それ次第で
自分の人生は変わるという
言葉が印象に残り、私の人
生のヒント、助けになる講
演会となりました。

栃木翔南高等学校2年



サウンドテーブルテニス
にチャレンジ

小さい頃からの夢を叶えるため
に努力し続けた姿に感動しまし
た。中でも「夢実現のためには
こつこつやることが大切。自分
は苦手だったが、失敗を経験し
てできるようになった」という
言葉が心に残りました。

栃木翔南高等学校1年

眞田選手の話聞いて、
「辛くても頑張る」から
「楽しんで努力する」と
いう考え方に変えること
ができました。

西那須野中学校2年

「やらないで後悔するよ
り、やって後悔するほう
がいい」という言葉を聞
き、チャレンジする勇氣
をもらいました。

南小学校5年

現状に満足せず、更に高み
を目指し、努力を積み重ね
る、石川選手のような強く
て優しいトップアスリート
になりたいです。

三島中学校1年



東京パラ公式マットで
ボッチャに挑戦



1mPOSSIBLE を
活用した授業

ボッチャは、初めは難しかったけど楽しかったです。パラリンピアンの秋元選手は努力家ですごくいなと思いました。

大貫小学校6年

負けてもそこで諦めず、めげずに食らいついて挑戦すれば結果が出るということを知りました。小学生の頃からずっと努力してきて今の高藤選手がいる、ということを知って、今の自分にはまだまだ足りないことがあるんだと思いました。

栃木翔南高等学校2年

堀江選手のお話を聞いて、「今を生きる」という言葉が、失敗を恐れていた私にはとても励みになりました。

稲村小学校5年

(ボッチャ大会を)
初めてやったけど楽しかった。

今市特別支援学校
小学部

がんばっている鈴木選手はすごいです。ぼくも、鈴木選手を見習って、何か一つ人生をかけてやれることを見つきたいです。

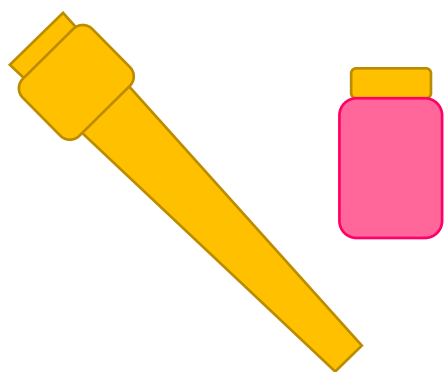
東小学校4年

障害のある方への差別がなくなるように、どんな人も自分のしたいことができる世の中になるように、私にもできることを見つけて、行動できるようにしたいです。

栃木翔南高等学校2年



講演会の実施



オリンピック・パラリンピック教育とは

オリンピック・パラリンピックの理念について学ぶとともに、その価値を体験的に教えていこうとする教育的活動のことです。大きく分けると、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」があります。

児童生徒の興味・関心を高め、スポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成することを目指しています。

栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業推進委員会

- 第1回推進委員会
開催日：令和3年（2021）年7月8日（木）
場 所：栃木県庁昭和館
内 容：事業概要説明
実践自治体、実践校における実施計画についての検討・協議
- 第2回推進委員会
開催方法：書面開催
内 容：実践した内容や方法等の検証及び改善策等の検討
実践、成果を普及する方法等の検討・協議

推進委員

- ◆ 宇都宮大学共同教育学部教授（委員長）
- ◆ 栃木翔南高等学校教頭
- ◆ 今市特別支援学校教頭
- ◆ 那須塩原市教育委員会主査・指導主事
- ◆ 那須教育事務所指導主事
- ◆ 栃木県総合政策部総合政策課主任
- ◆ 栃木県教育委員会事務局総務課課長補佐
スポーツ振興課指導主事
特別支援教育室【事務局】
高校教育課【事務局】
義務教育課【事務局】

主な成果と課題

今年度実施した本事業では、次のような成果や課題が挙げられた。県教育委員会としては、今回の成果等について県内に広く周知するとともに、関係機関や有識者等との連携を図り、オリンピック・パラリンピック教育の一層の充実に努めていく。

- ◆ 成果
 - ・学校と教育委員会、市町や県の体育関係部署などの関係機関の連携が進み、継続して学校の活動を支援していく体制が構築されてきた。また、児童生徒にとって身近な地域人材や保護者等の活用により、継続的な取組を実施する可能性が広がった。
 - ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、児童生徒がスポーツへの関心を高めるとともに、多様な考え方に触れることで、自分自身の生き方について考えるきっかけになった。
 - ・ボッチャなどのパラスポーツを通して、児童生徒と教員、保護者等が、地域の様々な年代の方と交流する機会をもつことができた。

- ◆ 課題
オリンピック・パラリンピック教育の継続が、学校の教育目標の達成に資するよう、教育課程に適切に位置付けて、現在実施している授業や学校行事等の学校教育活動と効果的に関連付けていく必要がある。

地域セミナー

- 開催方法：オンライン
- 開催日： 令和3（2021）年7月20日（火）
- 内 容：
 - ◆ 説 明「全国展開事業について」 日本体育大学 特別研究員 秋和 真澄 氏
 - ◆ 実践発表「令和2年度の取組について」（那須塩原市、今市高等学校、小山城南高等学校）
 - ◆ 研 修「共生社会の形成に向けて～IPC公認教材『mPOSSIBLE』を活用したパラリンピック教育の推進～」
日本財団パラリンピックサポートセンター マセソン美季 氏

地域ワークショップ

- 開催方法：オンライン
- 開催日： 令和4（2022）年2月17日（木）
- 内 容：
 - ◆ 実践発表 「中核拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例」
日本体育大学 特別研究員 秋和 真澄 氏
 - ◆ グループ別実践発表と共有
「今年度の成果と課題について」
 - ◆ グループ別協議
「次年度以降の取組について」

栃木県教育委員会事務局
義務教育課・高校教育課
〒320-850
宇都宮市塙田1-1-20
【義務教育課】
☎ 028-623-3392
☎ 028-623-3399
【高校教育課】
☎ 028-623-3382
☎ 028-623-3393